

2012年度 バンガロール日本商工会 第5回税務労務委員会 活動報告

日時：2013年2月13日（水） 17：00～19：00

場所：Deloitte Haskins & Cell 事務所会議室

出席：23名

議事：

（1）インド個人所得税法と社会保障制度

Ernst & Young 松田様

（2）主要通貨為替相場見通し

インドルピー為替・金利見通し

みずほコーポレート銀行 永野様

1. インド個人所得税法と社会保障制度

(1) 1961年所得税法の概要

- 課税範囲（課税年度、居住ステータス&所得の発生受領）
日印で課税年度異なる（日：1-12月、印4-3月）
- 居住ステータス（非居住者、非通常居住者、通常居住者）
一旦、居住者になると帰国後もステータスが残る
通常居住者になると帯同家族全員の全世界所得に課税も
- 租税条約（短期滞在者免税規定、課税権、タイブレーカー条項）
タイブレーカー条項無し：相互協議による合意により居住地国決定
- 課税所得区分（分類、課税の要否、所得控除項目）
- 非課税限度額と所得税率
年度予算案で毎年のように変わる
- 納税方法、コンプライアンス、確定申告
- 新申告要件（電子申告義務、通常居住者に求められる要件）

1. インド個人所得税法と社会保障制度

(2) 社会保障制度の概要

- Provident Fund (PF) 法の対象となる事業体と従業員
2008年10月より国際労働者は強制加入
- 国際労働者
- PF制度への拠出金と算定基礎
給与（算定基礎）の雇用者12%、従業員12%拠出
- 準備金の還付、退職年金の受給
準備金は58歳に達した後、退職した時点で還付
退職年金は労務提供期間、社会保障協定の有無にて対応が異なる
- 社会保障協定とそのメリット
二重加入問題解消、インド企業との雇用関係終了時に準備金引き出し&脱退給付受給可能

2 主要通貨 & インドル比 - 為替相場見通し

(1) ドル円為替相場見通し

- これまでの中長期的な円高の背景
海外勢の逃避資金滞留、日本の金融資産国内引籠もり
- 足元の円安進行の背景（円の需給、政治的要因、外的要因）
変化の兆しー円の需給構造（貿易収支赤字定着）
しっくりこない部分ー政治的要因（実現性と有効性）
- 米国経済・金融政策動向とリスク要因
雇用と物価⇒当面金融緩和&リスク継続
- 円安トレンドは定着するか？
日米金利差小、円売りポジションは5年振りの高水準
- ドル円見通し
足元の円安進行度合は維持し難いが、
中期的には円安方向にレンジシフト

2 主要通貨 & インドル[°] - 為替相場見通し

(2) ユーロドル為替相場見通し

- ユーロ問題

パニックは一服、しかし不安定化リスクは払拭できず

- ユーロ圏経済動向 - 実体経済の悪化は深刻

ユーロ圏経済はレセッション、ドイツ経済にも息切れの兆し
重債務国の失業率は歴史的な高水準

- ユーロ圏の危機対応 - 依然として遅く、少ない

早期の根本的解決（財政統合）は困難。時間稼ぎの危機対策も進捗遅い。景気対策は金融緩和に依存

- ユーロドル見通し

ユーロ動向は不安定で

長期的なユーロ安リスク払拭できず（全治10年？）

2 主要通貨 & インドルピー - 為替相場見通し

(3) インドルピー為替・金利見通し

- インドルピー為替相場の回顧
- ルピー相場を見る上でのポイント
 - 米国・欧州問題、アジア市場、インドの将来性 & リスク要因
- インドの経済動向
 - 減速傾向、底打ち・回復見込みも回復ペースは緩慢
- 金融政策
 - 緩和に転換、インフレ圧力減少し追加利下げの機会を窺う
- リスク要因
 - インフレ、財政赤字、経常収支赤字、政治指導力
- USD/INR 為替見通し
 - 短期的にはルピー安リスクが残るが、
中長期的にはルピー高基調が復調

ありがとうございました。
次回は、4月10日（水）
17:00～19:00 開催予定です。

